
転職すべき事情

山野つつじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転職すべき事情

【Nコード】

N3250Z

【作者名】

山野つづじ

【あらすじ】

俺の仕事は鳶。仕事にも現場の雰囲気にも慣れてきた頃、先輩鳶の藪さんから親方についての妙な話を聞いてしまう。俺、転職しないとまずいっすかね……。。

俺は鉄骨を組む鳶として、働いていた。

やっと、この仕事の手順がうつすらわかりかけてきたという感じかな。

いい先輩にも恵まれて、知った仲間との仕事は楽しくなってきた。いた。

今日もギリギリとした、真夏の日差しが体を刺す。

鳶の親方が、現場監督と次の鉄骨を組む打ち合わせをしている。

その間が下っ端の短い休憩時間となった。

俺は鳶の先輩である藪さんの隣で、キンキンに冷えた缶コーヒを飲んでいた。

「俺もいつか親方みたいになりたいな……」

俺の側にしゃがみこんでいた藪さんが、「よせよせ」と笑いながら言った。

藪さんは俺と同じ鉄骨を組む鳶で、仲間内では一番この仕事を長くしている人だ。

日に焼けた皮膚と逞しい筋肉がついた体は、熟練を示している。

「だつてさ、偉くなったみたいで格好いいじゃん」と俺は言った。

藪さんは、タバコの煙をフーツと出して笑った。

少し離れたところに見える親方は、鳶になる時に面接をした人だ。

俺はあの人のおかげでここに入れたと思ってる。

何もできない俺の、やる気だけを見込んでくれたのだろう。

親方はいつも長袖を着て少しだけ腕まくりといったスタイルだった。

だが今日は蒸し暑さに負けたのか、肘のところまで腕まくりをした。

眩しい太陽に目を細めていた俺だったが、親方の袖の淵から少し覗いているタトゥーは見逃さなかった。

「すげえ、藪さん！親方の腕にタトウーがあるよ！」
よく見ると、そのタトウーはハートマークの中に女性の名前が彫
つてあった。 「女の名前があるぜ！親方かっこいいなあ。正子
？奥さんの名前かな？」と呟いた。
すると、藪さんが「ああ、あれか……」と怪訝な顔をして話し始
めた。

かつて親方には、若い男が助手としてついてたんだよ。
ヤツは色が黒く筋肉はしまっていていい体してたなあ。

今で言う上昇志向っていうのか？とにかく一生懸命でな、人が嫌
がる仕事でも真面目にこなしてたよ。

性格もさ、人の悪口とか愚痴なんかも一切言わないもんだから、
そりゃあもうみんなに好かれてたねえ。「親方のようにになりたい」
ってよく言ってたなあ。

親方も、「俺の右腕だ」なんて他の人に言うくらいヤツのことは
気に入ってたよ。

それがさ、あんなことになるのはさ、誰も思っちゃいなかったん
だよ。

あの日は長く続いていた雨がやつと止まって、さあこれから仕事
だつて時だつたんだ。大型クレーンの設置とか材料の運び込みとか
が同時にあつて、みんなてんやわんやしてたのさ。

だだでさえ鳶の仕事は危険が多く、油断が命取りになるだろ？
そんな忙しい時だつたから、きつとみんながちよつとずつどこか
で油断してたんだろうなあ。

大型クレーンで吊り上げた鉄骨がさ、落ちちゃつたんだよ。

親方とヤツの上にはさ。

そりゃあもう大変だつたんだぜ。

親方の腕はどっか違う方向に曲がつてたし、ヤツは頭が割れてた
からもうだめだなつてみんな言つてたんだよ。

仕事は即中断になつてさ、俺と何人かで病院につめてたんだよ。

ヤツはやっぱりだめだったんだよね、即死だったよ。

そんなことになっちまったもんだから、会社のお偉いさんたちはヤツの家に行つて、保障だとか葬式手伝ったりしたんだよ。

親方の方は肩から先の骨が砕けて拾えない状態でさ、切断するしかなかつたんだよね。

もうみんなすっかり意気消沈しちゃってさ。

ところがだよ？親方が半年たつてひよっこり現場に顔見せに来たんだよ。

みんな腕のことには触れないでおこうって話してたんだよね。

ところがどっこい、親方にはちゃんと腕があつたんだよ。

みんな「あれ？」って思ってたんだけど、聞くに聞けないだろ？

だからさ、親方の腕のことは病院に運ばれた日以来、誰も口にしなくなつたんだよね。

噂では、親方の手術中に腕の提供者がでて、タイミングがいいつてことで、そのままつけたらしいけどよ。

まあ、あんなことがあつたからなんだろうけどさ、親方も以前とは変わっちまったんだな。

前は若いヤツらの面倒をよく見て、片腕になるような人材を積極的に育ててたのによ。今は若いもんどころか、誰も側には寄せ付けないからなあ。

そんな事とは露知らず、はしゃいでタワーの話をした自分が急に恥ずかしくなった。

聞かなきやよかつたな、とも思って空になったコーヒー缶をゴミ箱に投げた。

ところが話しはまだ終わっていなかった。

藪さんは目をキョロキョロ動かして声を更に小さくして続けた。

親方が仕事に復帰してから間もなかったかな。

死んだ助手の家にさ、俺が鳶の代表として香典を届けたんだよ。

ヤツの家までいったんだけどさ、表札見て驚いちゃったよ。
そこによ、奥さんの名前が書いてあったんだよ。

「正子」ってな。

まあな、驚ってというのは危険な場所が仕事場だからなあ。

でもよ、本当にヤツが親方の右腕になっちまうなんて誰も思わな
いだろう？

その話を全て聞いた時点で、転職することを決めた。

仕事にもこの現場にも、会社にも一つも不満はなかったんだけど
……。

俺、面接の時に言っちゃったんだよね。

あの時、親方が「お前はどつなりたいんだ？」って聞いたから、
ついつい調子いいこと言っちゃったんだ。

「あなたの片腕になりたい！」

(後書き)

お仕事の様子、言葉の形容の仕方を教えていただきました「一級建築士さん」に感謝いたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3250z/>

転職すべき事情

2011年12月11日08時50分発行